

近頃の若いモンは

—青年による青年事情通信—

教会での結婚式

教会によって状況は違っていると思うが、教会で結婚式をする人が少なくなっているような気がする。信者でも教会とは別の式場で結婚式をしている。それはひじょうに残念なことであり、また淋しく、悲しくさえも感じることもある。信者は教会で式をしなればならない。それは単なる義務ということではな

く、ぜひして欲しいという教会の強い望みでもある。強い望みであるからこそ、義務として定められているのである。教会で結婚するということは単に教会を式場として選ぶということではない。命の与え主である神の前で結婚の誓いをして、これから始める新しい生活の上に神の豊かな祝福を願うという意味がある。そのため、少し極端な言い方かもしれないが、教会は式そのものと同じくらいに結婚の準備を大切にしているのである。

かつては「結婚の要理」や「結婚のけいこ」と呼ばれていた結婚の準備。今では「結婚準備講座」や「結婚準備セミナー」と呼ばれている。教会や神父によって形式は若干違っているが、その内容は様々に工夫され、結婚生活の豊かさを伝えるとともに、神

とのつながりの大切さについて考えるいい機会になっている。

忙しい毎日。その中で結婚式の準備も行われる。忙しいからこそ、その流れを少し止めて新しい人生のスタートをじっくり準備する必要があるのではないだろうか。

教会での挙式が減っている背景には多々の理由があるろう。青少年の教会離れ教会の方が青少年から離れている？、ミサ参加者の減少。ひいては、信仰生活と社会生活との遊離？価値観がゆらいでいる時だからこそ、結婚を機に人生の意味をしつかりと見つめたい。

最近、カトリック青年同士の結婚が何組か続いていると聞く。喜ばしいことである。(続)

行橋教会主任 山元眞神父